

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第11回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 自主的審議事項「金谷区の防災機能強化について」（公開）
- (2) 令和2年度地域活動支援事業の完了について（公開）
- (3) 南葉ロッジの食堂について（公開）
- (4) 金谷地区公民館について（公開）

3 開催日時

令和3年3月24日（水）午後6時00分から午後7時55分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、山井広子（副会長）
石川美恵子、加藤國治、神崎 淑、小林雅史、高橋敏光、高橋 誠、
高宮宏一、土屋博幸、平良木美佐江、山本一男
- ・ 市民安全課：佐藤課長、上村主任
- ・ 危機管理課：伊藤係長、野沢主任
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、小池係長、田中主任

8 発言の内容

【田中主任】

- ・ 石野委員、大瀧委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は村田会長が務めることを報告

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：神崎委員、加藤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・ 資料により説明

【村田会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

— 次第3 議題（1） 自主的審議事項「金谷区の防災機能強化について」 —

【村田会長】

次第3 議題（1） 自主的審議事項「金谷区の防災機能強化について」に入る。

前回の会議では、上越市防災士会の大滝会長をお呼びして委員勉強会を行った。今回は金谷区の避難所等の現状について、市の市民安全課並びに危機管理課から説明を聞き、委員一人一人の理解を深めていきたい。

まずは、危機管理課より説明を求める。

【危機管理課 野沢主任】

- ・ 当日配布資料「指定避難所に関する説明資料」「上越市避難所開設・運営マニュアル」により説明

【村田会長】

次に、市民安全課より説明を求める。

【市民安全課 佐藤課長】

- ・ 配布資料「自主防災組織に対する市の支援及び防災士育成に関する市の取組について」「自主防災組織及び防災士養成の状況」により説明

【村田会長】

ただいまの両課の説明について、質問等のある委員の発言を求める。

【神崎委員】

危機管理課と市民安全課がどのような役割分担になっているか教えてほしい。避

難所や備蓄品の整備といったハード面が危機管理課で、避難所の運営や人材の育成といったソフト面を市民安全課が担当しているのか。

【市民安全課 佐藤課長】

危機管理課では避難所の運営も担っている。実際に災害が起きた際に対応するのが危機管理課である。市民安全課は自主防災組織や防災士の育成を担当している。

【神崎委員】

説明を聞いて、想像していた以上にいろいろな取組をしていると思った。今現在こういったものを準備している、こういった養成をしているとの説明があったが、現段階で足りないものや今後取り組んでいきたいと考えていることはあるか。

【危機管理課 伊藤係長】

それは避難所の運営についてということでしょうか。

【神崎委員】

全てである。避難所の運営に関することや備蓄品が足りないといったことでもよい。また、防災士の養成講座や訓練をやってみて、改善したいと思っていることでもよい。

【危機管理課 伊藤係長】

避難所については、状況やニーズなど避難所を取り巻く環境が変わる中で、備蓄品や運営方法などを随時見直ししている。令和2年度は、避難所においても新型コロナウイルス感染症対策が必要となり、新たにマニュアルを整備し、それを実施するために必要な物資の購入を随時行ってきた。自主防災組織や施設管理者の皆さんとともにその内容を共有し、広く使うためにどうするかという話し合いをして、レイアウトもそれぞれの避難所で作ることができた。実際に災害が起きて、避難所が開いたところはないが、今後そういった中で課題等を見直していくことが必要になると思う。

【神崎委員】

その考えは分かるが、現時点で何か課題はあるか。

【危機管理課 伊藤係長】

繰り返しになるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として必要なものについて、国の地方創生の交付金を6月の市議会で補正予算を専決で議決しても

らい、年度途中で整備した。さらに追加で購入する物品が幾つかあるが、現状ではそれを令和3年度で購入することで対応していきたい。令和2年6月には買い切れなかったものを令和3年度予算の中で改めて追加で購入し配備していく準備をしている。

【市民安全課 佐藤課長】

市民安全課としては、まだ全町内会に防災士が1人確保されている状況ではないため、引き続き防災士を増やしていきたいと思っている。また、不足しているということではないが、市民の防災に対する意識はもう少し上げていきたいと感じている。過去の災害から見ると、「自分は被害に遭わない」とか「ここは水が来ないから大丈夫」ということで避難が遅れることが現実にある。そういった市民の意識改革についていろいろな場面で呼びかけていきたい。

【土屋委員】

私は中越地震の時に長岡に住んでいたのが、被災が何かを頭や体で分かっている。被災した際、家屋は無事だったが水道と電気が来なくなった。このため、避難所に行って物資をもらわないといけないという経験をした。昨今、コロナ禍の状況で、避難所の定員により「これ以上は入れない」と言われることをニュースで見ることが多い。万が一、上越市でも避難所に行き「もう定員だから他に回るように」と言われたら、どうしたらいいか教えてほしい。

また、防災士を増やしたいという説明があった。私自身は地域協議会委員を務めているので防災士のことは分かるが、日々の生活の中で防災士募集の話聞いたことがないし、声がかかったこともない。防災士を目指したい時は、どこの誰に聞いたらいいのか。そして、金谷区の防災士の支部が未結成とのことだが、結成されているところと結成されていないところは、何がどう違うのか教えてほしい。

【危機管理課 伊藤係長】

避難所の定員については、当然そのようなニュースは承知しており、心配をされることも想像できる。市もそういったことを受けて、これまで体育館しか使っていなかった学校があるとすれば、元々想定している人数の避難者がある程度余裕を持って間隔を空けて避難してもらうには、あとどのぐらいの部屋が必要かという観点で各避難所の施設管理者や自主防災組織と話し合いをしている。そしてそれぞれの

施設で必要な避難スペースに関して最大限拡張してもらえるように整理させても
らっている。建物には限りはあるが、災害が発生し土砂降りになっているような中
で、何とか避難して来た人に「定員だから」と断ることは基本的に考えていない。
教室やその他のスペースを活用することも考えれば、過度に密になることなく入っ
てもらえる部分はあると思う。市のスタンスとしては、元々ある指定避難所の中で、
これまで使っていなかったスペースも含めて、それぞれ最大限使えるようスペース
を広げているという状況である。「これ以上は定員で入れない」ということにならな
いようにしたい。

【市民安全課 佐藤課長】

防災士の育成については、令和2年6月に全町内会に防災士養成講座募集の案内
をしている。その際、50人に達してない場合はさらに案内をしている。令和2年
度は広報上越の8月号で、防災士養成講座の内容と募集の案内を呼びかけた。また、
防災士のいない町内会には、個別に「今年度もまた募集を行うがどうか」と電話等
で推薦をお願いしている。

防災士会の支部のあるところとないところの違いについては、やはり支部がある
地区は支部が一つの単位となって、その地区で災害が発生した場合に、その中で
誰々はこっち、誰々はあっちへ行ってほしいと被災してない防災士で応援し合う体
制がとれると思う。金谷区は、現在支部はないが、小学校区単位で防災士の繋がり
が非常に強く、その中で一定の応援をしながら対応していく状態になっていると聞
いている。防災士会では将来的に全地区で支部を作るという考えを持っているので、
引き続き市も協力をしていきたいと思っている。

【小林委員】

避難所の初動体制で、市の職員が3人配置されるとのことである。年に1回、市
の職員と施設管理者、自主防災組織の3者が顔を合わせた中で、訓練や情報交換を
しているとのことだが、いざというときに避難した住民は市の職員の3人を頼って
大丈夫か。別に市を責めるつもりはなく、やはり地域住民ができることをする体制
をもっと作り上げなければならないと私自身は考えている。本当に最悪の事態を想
定した時に、このマニュアルどおりに果たしてできるのか。例えば、土砂降りの暗
闇で停電したときに、このマニュアルどおりに市の職員で避難所を設営できるか。

そういったことをシミュレーションした上で、物資面や人材面で足りないものや「地域にこういう人材が欲しい」「こういう体制をバックアップしてほしい」といった信頼関係を築くことが、この先必要ではないか。それについて、率直な意見を聞きたい。

また、もらった資料にもあるが、昨今地域防災力の向上という言葉があちらこちらで結構キーワードになっていると感じる。そこで、市が考える地域防災力の向上とは何を底上げしたいのか。それについて、どこが核となるべきなのか。どういう組織をどう動かして地域防災力の向上を目指していくのか。ビジョンがあれば教えてほしい。

【危機管理課 伊藤係長】

今日配布した3つのマニュアルのうち「事前準備編」と書かれたものを開いてほしい。今小林委員から意見があったように、市の指定避難所と呼ばれる避難所については、市が単独で全て運営できるものだとは考えていない。マニュアルの6ページから、避難所運営の形態について基本原則が書かれている。避難者、その次に自主防災組織、施設管理者、そして避難所初動対応職員と、それぞれの役割がある。8ページには、自主防災組織、施設管理者、避難所初動対応職員のいわゆる打ち合わせをイメージしたイラストが書かれている。災害はいつ発生するか分からず、いざ発生した時にどういうメンバーが避難所に集まれるかは災害ごとによって変わってくると思う。初動対応職員の3人が揃わないことも多分にあると思う。私自身も初動対応職員として避難所を担当していたこともあるが、そういった前提で地域の皆さんとは事前打ち合わせの中で話をさせてもらっていた。地震や災害があった時に、そこに集まることができた人の中で運営をしていかなければならないという前提を、地域の皆さんと共有しながら話をしてきた。顔合わせはとても大事なことだと思う。ここの避難所にはどういう人たちが避難してきて、どこを使って、どういう物資が配備されているのかといった事務的なことを確認するとともに、いざというときにどうやって開設することになるのかということも共有できるといいと思う。

【市民安全課 佐藤課長】

私からは地域防災力の向上について説明する。今ほど説明があったとおり、初動対応職員が災害発生直後に避難所に行けない場合が想定される。そういった時に一

番力を発揮してくれるのが、自主防災組織だと思っている。自主防災組織の活動のために市が日頃の訓練をできるだけサポートをしたいと思っているし、相談にも応じていきたいと思っている。指定避難所に来るだけが避難ではなく、地域によっては一次避難所ということで町内会館などに集まってもらう場合もある。そうなった場合、まさに自主防災組織が自主的に活動することが肝になってくると思う。その動ける自主防災組織の中心的役割を担うのが防災士、あるいは町内会長ということになってくるかと思う。防災士の養成や定期的な研修会等に市も講師を派遣するなり、防災士会の皆さんから協力いただいてアドバイスをしていきたいと思っている。

【石川委員】

避難所の物品一覧を見るとこれしかないのかと感じる。これを何倍も揃えるわけにはいかないと思うが、避難所に行っても食料などがみんなに渡るほどはないのだということがよく分かる。いざという時のために、自分で備蓄品を揃えておく必要があることをみんな知っているとは思いますが、実際はしていないと思う。このような大切なことはもう少し市民に広く知らせたほうがよい。これから私たちも何かの機会に、とにかく自分で持っていかなくてはいけないと言っていきたいと思う。私が市にお願いしたいのは間仕切りである。今は新型コロナウイルス感染予防だけでなくプライバシーもあるので、何とか間仕切りを揃えてほしい。段ボールベッドまでは言わないが、とにかく間仕切りになるものを何か考えてほしい。テントのようなものもあるが、それを全部揃えるのは大変である。簡単なものでいいので、間仕切りを重点的に配備してほしい。

【危機管理課 伊藤係長】

広報上越4月号とあわせて津波ハザードマップを全戸配布する。市がこのようなマップを配るたびに、各家庭において備えてほしいものを載せている。市の避難所に避難する場合、着替えはもちろん、食料や身の回りで使うものについては、なるべく持参するよう呼びかけている。食べ物に関しては、市が最低限のものを指定避難所に配備しており、集中備蓄してあるところから必要に応じて各避難所に再配送することとしている。さらに、新潟県も各市町村に追加物資を提供できる備蓄を行っている。基本的には各個人でも備蓄をお願いしているのが現在の状況である。ただ、まずは命を守ることが大切なので、何も持参するいと間もないほど手ぶらで避

難所まで来る人もいる。そういった人に対しても最低限食料などを提供できるようにはしているが、それが多いか少ないかはあると思う。今は市の人口の10%の2食分をそれぞれの避難所や集中備蓄庫に備蓄している。また、間仕切りについても、新潟県で今年度新型コロナウイルス感染症対策の観点もあり、新たに間仕切りとダンボールベッドのセットを備蓄品として購入している。各避難所にある間仕切りや段ボールベッドを十二分に活用しながら、避難が長期化する中でさらに多くの間仕切りが必要になってくれば、新潟県からの追加の物資の提供などを受けて対応していきたいと思う。少し時間差は発生するが、元々ある備蓄品プラスあとから支援してもらいものを組み合わせながら対応していきたい。

【市民安全課 佐藤課長】

食事については、避難所対応職員と災害対策本部が常に連絡をとっている。何人避難所にいるという連絡を受けて、これまでもパンであったり弁当であったりを、昼食や夕飯、朝食に届ける体制をとっている。避難してすぐにそれがあるかというところというのはないが、職員から連絡を受けて対応できる体制は整えられている。

【平良木委員】

このマニュアルを読むと避難所の開設や運営にあたっては、自主防災組織と施設管理者、初動対応職員の連携が非常に大事だという印象を受けた。そのために事前打ち合わせがあると思う。私自身民生委員を務めているので毎年担当の2か所の事前打ち合わせに出席しているが、その話し合いが連絡や確認事項だけで、どのように連携していくかという話し合いまでいかない。そして、その時初動対応職員が「まだこの会場を見たことがないので、皆さんと一緒にこれから見たい」と言うのでみんなが驚いたこともあった。先ほど話のあったレイアウトの作成についても、現状とは合わない一般的な図を使ったため後で訂正版を送ると言われたが、訂正版も実際の会場図とはかなり違ったものだった。前回の会議で防災士会の会長から講話を聞いて、避難所運営委員会という考え方もあり、年に1回顔を合わせて相談することが大事だと聞いた。やはり連携やこの話し合いを充実することがすごく大事だと思う。

そこで、市はこの打ち合わせの現状をどう捉えているのか。もっと連携させるために、そういう事前の3者の打ち合わせや連携の仕方についてどうイメージしてい

るか教えてほしい。また、初動対応職員の支援体制を今後改善していくビジョンを持っているか。

【危機管理課 伊藤係長】

連携の強化に関して言うと、打合せの場でなるべくいろいろなことを話し合ってもらうのが一番大事だと思う。市の職員の確認不足や勉強不足に関しては、そういったことがあれば、大変申し訳なく思う。新たに初動対応職員に任命した職員、また、初めて避難所において班長になった職員に対しては、毎年研修も実施している。そういった中で、職員個々の知識などに関してはこれからも強化していきたいと思う。地域や施設管理者の皆さんとの連携の強化をしていく観点で言うと、例えば3者での打合せのほかに、自主防災組織が企画した避難訓練に指定避難所の初動対応職員も来てほしいと依頼があれば、その職員が参加することはこれまでも行っている。私自身もそうやって呼んでもらい、一緒に避難訓練に参加して避難所を開設したこともある。そういった自主防災組織の活動の中で、可能な範囲で声を掛けられれば、ぜひ参加していきたい。実際に鍵を開けるところから始まって、場合によっては物資を広げてみるとか、発電機を動かしてみるなど、実際に一緒に活動してみて、こうした方がいいんじゃないか、ああしたほうがいいんじゃないかと話をする機会にしてもらいたいと思う。

【市民安全課 佐藤課長】

避難所運営訓練は実際に指定避難所で行っている。令和3年度は飯小学校、令和4年度以降に高田西小学校とか高田商業高校、関根学校高校で実施する予定であるので、そこでより密度の濃い話ができると考えている。

【土屋委員】

市内の全町内会で組織する上越市防災委員会で貸し出している防災講習用DVDは、町内会を通じて借りるのか。それとも、個人で借りることもできるのか。

【市民安全課 佐藤課長】

基本的には町内会を通じてとなるが、例えば学校や勤めている職場で使いたいという相談があれば、貸し出し状況にもよるが相談に応じたいと思う。

【土屋委員】

市民安全課に相談すればよいか。

【市民安全課 佐藤課長】

そうである。

【村田会長】

これで質疑応答を終了する。

—危機管理課・市民安全課退席—

【村田会長】

それでは、ただいまの市の担当課からの説明を振り返って、今後の自主的審議事項の協議にどのように結びつけていくか意見のある委員の発言を求める。

【小林委員】

先ほど土屋委員からも質問があった防災講習用DVDを委員で1回見てみるの
はどうか。また、令和3年度に飯小学校で避難所運営訓練があるということなので、
オブザーバーとしてぜひ参加させてもらえればと考えている。また、自主防災組織、
施設管理者、初動対応職員の3者の打合せで、物資の確認やオペレーションの確認
をしようと思うが、そこに立ち会えるのは町内の中でも限られた人たちだけだと思う。
そこで、もし地域協議会委員が顔を出させてもらえるのであれば、ぜひ参加させて
もらいたい。そこで実際に資機材の確認を行ったり、段ボールベッドを組み立てて
みたり、パーテーションを作ってみる。そういった経験を、それぞれが町内に戻っ
て、各地域の防災組織とやりとりをして広く市民に広めていく。先ほど危機管理課
からの説明にあったように、今度は地域の防災訓練に市の職員に来てもらい顔も名
前も知って、「この避難所の初動対応職員はこの人たちだ」ということを我々も知る
べきだと思う。顔を知った仲であれば、もう一段コミュニケーションも高められ、
お互い支え合えるのではないかと思う。そういった何段階かの構えで徐々に裾野を
広げていくことができればと考える。

【村田会長】

私の知る限りその3者での打合せは、町内会においては町内会長、防災防犯担当
が参加させてもらい、市の初動対応職員、それから学校と相談したり話を聞くとい
うのが今までの通例である。初動対応職員は1年サイクルで交代している。しかも、

例えば税務課の人が担当になるなど、危機管理課や市民安全課といった業務を経験した職員でなく、全く業務が違う人が担当になることがある。かつ地元に近い職員が割り振られているような気がする。したがって、平良木委員が発言したように、まだ避難所となる施設を見ていないといった可能性も多分にある気がする。何百という避難所があるので、そこに職員を3人割り振れば大変な数である。だからその辺を踏まえた中で対応していくことが必要かと思う。

今の意見を次回以降の自主的審議事項の協議につなげていきたい。今日は1時間に渡り市の担当課から説明や委員の質疑に対する回答をしてもらった。これらの事を肉付けして、次の自主的審議事項の協議を進める際の知識としていきたいと思う。また、小林委員からも提案があったが、地域協議会で防犯講習用DVDを見てさらに知識をレベルアップしていきたい。また正副会長でその辺も煮詰めていきたいと思う。それから、高宮委員に確認する。令和3年度に飯小学校で避難所運営訓練を実施するとのことだが、既に連絡は入っているか。いつごろなのか。

【高宮委員】

まだ来ていない。高橋敏光委員のところにもまだ来ていないと思う。

【村田会長】

連絡はまだ来ていないとのことだが、令和3年度に実施の方向かと思うので、その時に地域協議会委員が参加させてもらうのは可能かもしれない。

【高宮委員】

黒田小学校、高田西小学校、飯小学校ではやはり多少違うと思う。町内会長が状況をよく知っていると思うので、そういう話が市から来ているか、各町内会長に聞いて私も参加させてほしいと申し出をしたほうがいい。飯小学校でやったことが高田西小学校に合うかどうかという問題もあると思う。それが合えば、合同で見てもらうということになるかと思う。もう少し町内会長に質問なり、どうなのか聞いて、行動することでよいのではないか。

【村田会長】

それでは、今の皆さんの意見を金谷区の防災機能の強化につなげて進めていきたいと思う。

以上で次第3議題（1）自主的審議事項「金谷区の防災機能強化について」を終

了する。

—次第4報告（1）令和2年度地域活動支援事業の完了について—

【村田会長】

次に次第4報告（1）令和2年度地域活動支援事業の完了についてに入る。

事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料No.1により説明

【村田会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

—次第5その他（1）南葉ロッジの食堂について—

【村田会長】

次第5その他（1）南葉ロッジの食堂についてに入る。

先日の市議会の委員会で、南葉ロッジの食堂を休止する方向であることが議論され、上越タイムスにも記事が掲載された。これについては、金谷区の出来事であり、委員の皆さんにも理解してもらおうという意味で議題とした。指定管理者である「南葉高原キャンプ場管理運営協議会」の会長が高橋敏光委員であるため、概略の説明を求める。

【高橋敏光委員】

- ・市全体では、5、6年前から各施設の合理化や事業見直しを行っている
- ・南葉高原キャンプ場では、令和2年5月の1か月間、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、営業ができず収入が大分減ったこともあり見直しすることになった
- ・現在、食堂では4人を雇用している。売上から人件費や仕入れ、ガス代、食材の購入費などを差し引くと、令和2年度は367万円の赤字であった
- ・令和元年度は370万円、平成30年度は370万円、平成29年度は307万

円の赤字であった

- ・他の業務は利益が出ているが、食堂だけが赤字の状態である。特に平日は客も少なく厳しい状況である
- ・これまでは810万円で受託していたが、今回市と協議した結果、食堂については一時休止することとなった
- ・ただし、4人の雇用を一度になくすわけにはいかないため、これまでの810万円から200万円減の610万円で受託する見込みとなった
- ・食堂は休止ではあるが、団体等で事前に予約があれば食事等を提供したいと思う
- ・また、売店の営業や自動販売機の設置は引き続き行う
- ・キャンプ場自体は相当予約が入っているので、そちらは通常どおり営業する
- ・なお、市から南葉山荘の落雷による火災の保険料の説明については一切ない
- ・今後も南葉高原キャンプ場繁栄のために、皆さんの力をお借りしたい

【村田会長】

この件については、今後進展があった際に改めて委員で情報を共有していきたい。

—次第5その他（2）金谷地区公民館について—

【村田会長】

次第5その他（2）金谷地区公民館についてに入る。

この件は、先の市議会で近藤議員の一般質問において教育長が答弁した。これについて「金谷地区振興協議会」の会長である高橋敏光委員が市とやり取りをしているため、現状について概略の説明を求める。

【高橋敏光委員】

- ・金谷地区公民館については、平成27年頃に高田地区公民館金谷分館から金谷地区公民館に変わった
- ・そこから、金谷地区振興協議会として市に移転に関する要望書を提出するようになった
- ・金谷区は上越市の地区の中で5番目に人口が多いが、金谷区だけが区の中に公民館がない

- ・現在の金谷地区公民館は寺町にあるので利便性に欠け、また耐震構造にもなっていない。老朽化もしている
- ・市の担当課からは、「移転する方針が決まった。どのような場所にするかは検討中である」との回答があった
- ・3月26日に金谷地区振興協議会が提出した要望書に対する回答をもらうことになっているので、その結果はまた皆さんに伝えたい
- ・金谷地区公民館の利用率は高く、毎日大変混みあっている。金谷区の人が活動したくても不便なのが現状で、何とか近いうちに公民館を建てる場所を決めてもらいたいと思っている

【村田会長】

この件についても、今後進展があった際に改めて委員で情報を共有していきたい。
 以上で、次第5その他（2）金谷地区公民館についてを終了する。

—次第6 事務連絡—

【村田会長】

次第6 事務連絡について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・次回会議：4月28日（水）午後6時から 福祉交流プラザ
- ・内容（予定）：自主的審議事項「金谷区の防災機能強化について」
- ・当日配布資料：地域活動支援事業に関する資料の配布について
 金谷区地域協議会だより第45号（3月25日発行）
 高田区における「内水ハザードマップ」作成及び住民への周知について（意見書）の写し

【村田会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【土屋委員】

地域活動支援事業の審査・採択を行う会議は、5月のいつ頃になる予定か。

【堀川センター長】

現時点の予定としては、定例日である5月の第4水曜日に合わせて審査・採択を行う予定である。

【高橋 誠委員】

令和2年度の地域活動支援事業の中で、飯の歴史文化の保全・保護活動事業として厨子の修復費用を採択したと記憶している。採択に当たっては、事業完了日までに町内から寄付を集める取組を行い、それを報告するという条件付きで採択したと思うが、どういう結果になったか教えてほしい。

【田中主任】

本日、今年度採択された11事業中5事業分の完了について報告した。飯地区町づくり協議会の事案は、次回の会議での報告を予定している。

【村田会長】

このほかに質問のある委員の発言を求めるがなし。

【村田会長】

議題ではないが一点皆さんに聞いてほしい。

先日、ヨーデル金谷で大貫4町内の町内会長とヨーデル金谷の支配人と話をする機会があり、小一時間ほど話した。以前、支配人が、「地元で説明をしたのか」と市に質問した際に、市の施設経営管理室が「地域協議会へ説明した」と回答した。そして、地域協議会からはそんなに質問はなかったことから、ヨーデル金谷が第三者に受託してもらえなかったら廃止だということを地域協議会がさも承知をしたような話を聞いたとのことで、私に「地域協議会は廃止することを承知したのか」と開口一番に言われた。金谷区地域協議会は、令和2年8月26日に開催された第4回の会議で市からの説明を聞いたり質問したりした。私や高橋敏光委員、石川委員も質問していた。私は「地域の本当に大事な施設だから、そんなに簡単に廃止だと言わないでほしい」と発言したが、それ以上に質問がなかったことから、市は「地域協議会は納得した」という感じを持って、支配人に伝えたようだ。地域協議会は地域のために活躍しなければいけないのに、廃止を認めたように言われたので、非常に不本意で憤慨している。ヨーデル金谷としてみれば地域協議会が廃止でいいと言ったように受けとられた。このことについては、正副会長で協議をして、もう一度市に説明に来てもらうとか意見書を出すとか、そんなふうには話をしないとどうも

収まらない。今日ここで議論する予定はないが、こういうことが先日あったということだけ皆さんに承知しておいてほしい。決して、地域協議会ではヨーデル金谷を廃止することを承知していない。採決を取ったわけでもなく、説明を聞いただけである。市は説明を聞けば、承知したことになるのか。私も啞然としているので、こういう話があったことを承知しておいてほしい。

本日の議題は全て終了した。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。